

提出された意見と市の考え方【要約版】

提出された意見の件数 … 28名より計60件

意見内容	件数
学校再編のイメージについて	14件
通学（適正配置）について	12件
人口増加対策と学校再編について	5件
学校規模の小規模化について	4件
その他	25件

学校再編のイメージについて

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	篠岡	篠岡学区は、非常に広大な地区で、道路の高低差が酷く、市街化区域の平地の学区とは、通学の負担が全く異なる。 再編するのであれば、篠岡地区全体を均等に分割した小学校区への再編も同時に必要である。 せめて、小学校低学年、中学年は、2 km程度での通学エリアになるように再編してほしい。それが出来なければ、通学スクールバスの無料運行をすべきである。 [提出者No. 1]	P56上段に記載のとおり、本計画に記載された地区別の学校再編のイメージは、児童生徒数の推計及び適正規模・適正配置の基準に基づいた必要学校数のイメージであり、具体的な再編案は、今後、地域の実情に合わせて地域別の再編計画を策定していく中で検討します。 なお、篠岡地区については、児童生徒数の減少が著しいため、まずは現状でも適正規模を大きく下回っている学校についての再編に取り組み、その後は、その再編の状況や児童生徒数の推移等により、さらなる再編を検討するなど、段階的に再編に取り組む必要があると考えています。
2		段階的に篠岡中学校に統合した方がいい。桃陵中、光ヶ丘中のどちらかの校舎を仮で使えばよい。 [提出者No. 7]	
3		桃花台の学校統合に賛成である。先に大城小の中学校学区の見直しを検討していただきたい。 [提出者No. 16]	

学校再編のイメージについて

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
4	巾下	三ツ渚小学校と村中小学校は、伝統があり地域の中心となっている。再編には賛成できない。三ツ渚小学校は過去には1学年1クラス（30人程度）であったため、いまさら児童数だけで統合するのは反対である。 [提出者No. 12]	P2の回答のとおり
5		三ツ渚小学校は、明治7年開校150周年を迎えているが、過去においても私が在籍中でも殆どが6学年全て1学級であった。児童数が減少するから統廃合をするはあまりにも一方的な考え方である。 [提出者No. 11]	
6		三ツ渚小学校の校舎を、一部改装してそのまま使用するのはいかがか。 [提出者No. 9]	
7		開校100年の村中小は廃校の対象になるか。 [提出者No. 15]	
8		学校編成の周知をきちんとした上で、それから産まれてくる年代の子たちから統合にしてほしい。 [提出者No. 14]	

学校再編のイメージについて

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
9	小牧	桃花台地域の小学校を1校中学校を1校にする案はあまりにも乱暴すぎる。 [提出者No. 21]	P2の回答のとおり
10	味岡	ある程度の統廃合はやむを得ないとしても適正規模を12学級以上24学級以下として切り分けていくやり方は乱暴である。特に篠岡地区の小中各1校は無理がある。 [提出者No. 25]	
11	不明	篠岡地区の小中学校をそれぞれ1校に統廃合する事は反対。せめて2校ずつにして欲しい。 [提出者No. 4]	
12	篠岡	子どもが減るからと言って学校を減らす計画には納得できない。 [提出者No. 28]	
13		小学校中学校の数は、現状維持と、完全統廃合の二者択一ではなく、小中学校の数を数校とする可能性を探ることはなされたのか。 かつて、篠岡地区には、分校制度（小学校1、2年生は身近な分校に通い、3年生より本校に通う）があった。これはとても良い制度である。 [提出者No. 18]	
14		分校制（例えば、光ヶ丘小学校や桃ヶ丘小学校を篠岡小学校の分校）にするのも一つ。分校になることで、マンパワーが不足する際に先生の行き来（越境応援）ができる。 [提出者No. 27]	

通学（適正配置）について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	篠岡	小学校低学年、中学年は、2 km程度での通学エリアになるように再編してほしい。それが出来なければ、通学スクールバスの無料運行をすべきである。 [提出者No. 1]	通学区域の変更や学校再編に伴い、通学距離や通学路の変更等が生じることが想定されます。P53中段に記載のとおり、子どもたちが安心して学校に通うことができるよう、通学距離や学年等を考慮し、必要に応じて<u>自転車による通学や公共交通機関の利用、スクールバスの導入等を検討</u>します。
2		桃花台の学校へ桃花台以外の地区から行くには、どこの地域もすべて急坂を上らなくてはなりません。平たん路と勾配の大きい道路では体への負担と要する時間が違うはずのため、その点を考慮する必要がある。 [提出者No. 3]	
3		バス通学となった場合に、学校までの路線や授業に間に合う時刻表の編成ができるのだろうか。 [提出者No. 27]	
4		通学の距離など、子どもの目線で考えられているのか。 [提出者No. 28]	
5		学校を減らした結果、通学時間が長くなるような自治体を積極的に選ぶ親はいない。 [提出者No. 8]	

通学（適正配置）について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
6	巾下	地球環境の変化や、事件・事故のリスク低減等を含め、スクールバスをお願いしたい。 [提出者No. 19]	P5の回答のとおり
7		スクールバスの導入、自転車通学の許可を検討お願いしたい。 [提出者No. 14]	
8		体力に問題のある児童（低学年）が通学することは、健康面、安全な通学路の確保等で問題が多く発生する。 [提出者No. 9]	
9		通学距離 4 km 範囲内とは大人でも 1 時間位かかる距離、まして新入学時など考えられない位の時間ではないか。少数であれば、地域によっては一人二人での通学になることなど課題はもり沢山である。 [提出者No. 11]	
10	小牧	小学1年生の子が重いランドセルを背負い、4kmもの道を通うのは大変である。 [提出者No. 23]	
11	小牧南	昔の田園環境の中を歩くのと、今の車が飛び交う中を重い教材を背負って歩くのとでは、安全やストレス等の点でも大きな違いがある。障害等、通学を困難にする諸事情を抱える子もいるはず。 巡回バスや路線バスの活用等をはじめ、全国の長距離通学対処策の情報を集めることが肝要である。 [提出者No. 5]	
12		統廃合することで、通学困難な児童が増える。今でも低学年の子どもたち（特に新生1年生）は学校に行くだけで体力を消耗し学習への悪影響がでるのではないかな。 [提出者No. 26]	6

人口増加対策と学校再編について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	篠岡	再編対象地区での人口増加の取り組みが必要である。特に、子育て世代の増加に向けた取組が必要。 [提出者No. 17]	本市におきまして、これまで子どもや子育てに関する施策を重点的、総合的に推進してきましたが、将来的に、人口減少、児童生徒数の減少は、さらに進むと推計しており、学校再編が必要であると考えています。 また、学校再編により、充実した学校施設で特色ある教育活動を行い、<u>魅力的な教育環境の学校を地域に作ることで、若い世代の家族を呼び込むための強み</u>になるようにしたいと考えています。 【計画案の修正】P54④「地域とともにある学校づくり」において、若い世代や子育て世代にとって魅力のある学校づくりを行う旨の説明を本文に加えます。
2		何故明石市は子どもの数が増えているのに、小牧市は減っているのか。十分な検証はされたのか。 [提出者No. 8]	
3	巾下	小牧の地域にあった現状をもっと良く理解し、舟津、三ツ瀧地域を判断すべき。 人が住みやすい環境作りをしないで、減少するから統廃合をするはあまりにも一方的な考え方である。昔から小規模学級であった地域を人口増加対策もせず廃校は必要ではない。 [提出者No. 11]	
4	小牧	廃校になってしまった学校の周りには若者は集まってこない。若者が住みたくなる地域の中心には学校が存在すべき。 [提出者No. 23]	
5	味岡	人口減少の進行を防ぐ施策が必要。若い人達に魅力ある子育て、教育施策が必要である。 学校統廃合を一面的にみるのではなく、まちづくりの観点から総合的に検討する必要がある。 [提出者No. 25]	

学校規模の小規模化について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	巾下	明治7年に創立された歴史ある三ツ淵小学校を廃校にしないでほしい。1学年1クラスで何が問題なのか。私のときは学年1クラスであった。1クラスだからこそクラスの殆ど全員と関わり合い、絆を深めることができた。 多くの友達と知り合い切磋琢磨していくのは塾・習い事・中学・高校・社会人になってからでも遅くない。 [提出者No. 22]	P41～P43に記載のとおり、学校規模が小規模化すると、「一人一人の児童生徒に目が届きやすく、きめ細かな指導ができる」などの利点もありますが、一方で「多様な他者との触れ合いが限定的となる」「クラス替えができないため、人間関係が固定化される」「様々な考えに触れて、互いに切磋琢磨することができにくい」「部活動や委員会等の子どもたちが希望する活躍の場の確保ができなくなる」など、多くの課題も指摘されています。これらの課題は、少人数の学校に通う全ての児童生徒に当てはまるということはありませんが、市としても大きな課題として認識しています。 学校教育では、子どもたちが多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力を伸ばしていくことが重要であると考えており、<u>学校規模が小規模化することの様々なデメリットを解消するために、学校規模を適正規模にできるだけ近づけていく</u>が必要であると考えています。
2	北里	児童数が少なければより丁寧な学習ができる。 [提出者No. 24]	
3	不明	小中一貫・クラス数が少なくなることのデメリットとして競争意識の低下が考えられる。 [提出者No. 2]	
4	小牧	小規模校は、適正規模校より劣るとも受け取られる主張は訂正されるべき。 [提出者No. 23]	

早急に取り組む必要のある学校

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	篠岡	令和5年度時点で1学級になっている学校を最優先で再編を進めていただきたい。 [提出者No. 10]	P58に記載のとおり、市下地区、篠岡地区及び北里地区については、児童生徒数の減少や施設の老朽化の課題が大きく、<u>早急に学校再編に取り組む</u>必要があると認識しており、速やかに保護者、教員、地域の方々等を交えた学校再編の協議を開始する予定です。 また、学校再編についての基本的な考えは、P2の回答のとおり
2		令和15年ではなくもっと早くにこちらの計画を実行していただけたら。 [提出者No. 6]	

学校間交流について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	篠岡	1 学年のみの行事（野外学習、修学旅行など）は他の学校と合同（そのために前もって他学校と交流をしておく）というのも難しいか。 [提出者No. 6]	現在、中学校の部活動において複数校による合同部活動などの実施により子どもたちの活動の場の確保に努めております。また、今後、学校再編を進めていく中においては、<u>事前の学校間の交流など、再編に伴う児童生徒の負担が少なくなるような取組も検討</u>していく必要があると考えています。
2	巾下	小学校・中学校共に、いきなり統合ではなく、両校顔合わせやクラブ活動等を通じた交流を経て、じっくりと行うのはいかがか。 [提出者No. 19]	

学校の選択制の導入について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	篠岡	桃陵中は他に桃小と陶小の全員がそのまま上がるのでその中に少人数で入ることを親も子も不安だという声も多数ある。 せめて大城の子は光中か桃陵中か、自分で通う中学を選べるようにするなど、学区の事だけでも早急に検討していただけたら。 [提出者No. 16]	学校と地域社会との結びつきが重要であり、現時点で導入については検討しておりません。

1 学級あたりの児童生徒数について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	篠岡	1 クラスの児童生徒の数は文部科学省の人数に従うのか。1 クラス20人程度が、良いのではと考えるが、小牧市としてはどう考えるのか。 [提出者No. 18]	P23下段に記載のとおり、本市の1 学級あたりの上限人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学1 年生は35人、中学校の2・3 年生は40人であります。<u>現時点で、市独自に上限人数を設定することは考えておりません。</u>
2	小牧南	少人数学級だからこそ、個々の児童への細やかな目配りや指導援助ができる。児童数減少問題を学校統廃合という形で解決するのではなく、小牧市独自で少人数学級を実現する方向転換の機会にするべき。 [提出者No. 26]	

通学に関する懸念点について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	不明	長距離通学者が心配。この酷暑ではそれだけで体力が消耗してしまう。ランドセルが重くならないような工夫を学校全体で促進してもいいのでは。 [提出者No. 2]	現在も学校用具の持ち帰りによる子どもたちの身体の過重を軽減するために、宿題の有無や時間割、教科の学習内容によって<u>各学校で計画的に持ち帰りや持参をするように指導</u>しています。 学校再編に伴う通学に対する懸念については、P5の回答のとおり

学校再編に伴う子どもたちの環境の変化について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	巾下	小学校と中学校同じ年に一気に統合、又は6年以上期間空けてから統合にして、どの子も2回在学中の統合を経験させる事の無い様にお願いしたい。 また、中学3年で統合は受験に影響が出る可能性があるため、中学3年生だけは前の学校のままの環境でいさせてあげてほしい。 [提出者No. 14]	P55上段に記載のとおり、学校再編に伴って様々な課題が出てくることが考えられます。<u>教員や保護者・地域と連携してきめ細かに対応</u>していく必要があると考えています。
2		中学校3年生での統合は受験にも影響を与えると思うので、3年生の統合は避けていただきたい。 また、統合後の子供達の肉体的・精神的な負担軽減のため、カウンセラー等も統合先の学校に常駐等は可能か。 [提出者No. 19]	上記の回答のとおり なお、学校再編を行う場合に、中学3年生を除外することは難しいと思いますが、<u>受験への影響などには細心の注意を払う必要がある</u>と考えています。 また、学校カウンセラーについては、現在も配置していますので、対応は可能です。

過疎化の進行について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	巾下	過疎地域の学校統合は中心部に人が集中してしまい、余計に過疎化が進んでしまわないか心配。 [提出者No. 19]	学校の小規模化により多くの課題が指摘されており、その課題解消のため、学校再編は必要なことと考えております。子育て世代にとっては、近くに学校があることは大きな利点であることから、学校再編が地域に与える影響は大きいものと考えています。そのため、新たな学校と地域のつながりを再構築するなど、<u>地域全体に活力をもたらすよう、まちづくりを検討</u>していく必要があると考えています。

地域の拠点としての学校

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	巾下	地域に学校がなくなれば、ますます地域に新住民が転居して来る事もなく、地域の過疎化高齢化だけが進み、子ども達の地域の愛着も薄れて地域衰退が進んでしまう。 [提出者No. 13]	P55中段に記載のとおり、学校は地域スポーツや防災など地域の重要な拠点となっていることから、学校再編に伴って学校として用途が不要となったとしても、<u>地域スポーツなど地域住民の交流の場や災害時の避難所としての機能の維持については検討</u>していく必要があると考えています。 ただし、<u>それらの機能の維持と教育施設として学校を残していくことは、分けて考えなければならない</u>と考えています。
2	小牧	地域の特殊性を活かした文化がそれぞれの学校には根付いているが、統廃合により貴重な文化が継承されなくなる。 [提出者No. 23]	

学校施設の老朽化について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	不明	大規模な災害があった場合、現校舎の安全性は保たれるのか、避難場所として使っても問題のない耐久性があるのかなど公表していただけると安心。 [提出者No. 2]	本市では平成19年度までに校舎や体育館などの耐震診断を実施し、耐震性が不足していると判定された建物の耐震改修や改築を実施してきたところです。 各小中学校の耐震診断結果は、市ホームページにて公表しております。 [小牧市ホームページ] ホーム＞組織・機構＞教育委員会事務局＞教育総務課＞施設係＞教育＞お知らせ＞小中学校の耐震診断結果について

学校施設の維持管理について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	篠岡	学校施設の寿命について、各校には大きな差があるが、大切にメンテナンスを継続的に行ってきたいれば、使い込まれた魅力的な学校が多くある。 [提出者No. 18]	P53下段に「③学校施設の老朽化への対応の在り方」を記載しています。 なお、一般的な学校の耐用年数は60年ですが、本市においては、適正な維持管理により長寿命化を図ることで、耐用年数を80年とすることとしています。ただし、そうした中においてもP29に記載のとおり、既存の学校を全て、目標耐用年数である80年以内に建替えるとした場合、今後、2年に1校ずつ建替えを行わなければならない、財政的にも困難であるため、<u>児童生徒数の状況や教育環境を見据えて、学校再編を検討</u>していく必要があると考えています。

災害対策について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	味岡	新しく学校を建設する場合に、災害に強い浄化槽の設置をご検討いただきたい。 東日本大震災や能登半島沖地震等の災害において、トイレが使用できないことにより、水分摂取を控え、健康被害の原因となった事例が多数あったと聞いている。 [提出者No. 20]	学校施設は、防災など地域にとって重要な拠点であると考えています。学校施設の耐震性の確保をはじめとしてマンホールトイレの設置など防災拠点、避難所の機能を確保できるよう検討してまいります。

三ツ渚小学校の建替えについて

No.	地区	意見（要約）	市の考え方
1	巾下	小牧南小学校の全面改装は終了している。 次は、三ツ渚小学校ではないのか。 [提出者No. 9]	P11及びP12下段に記載のとおり、三ツ渚小学校においては、築年数60年以上が経過しており、小牧市公共施設適正配置計画においては、第2期（令和9年～令和18年）に建替えを検討する学校に位置付けられていますが、その計画は、「小牧市新たな学校づくり推進計画」において、学校施設の適正規模・適正配置や子どもたちにとってより望ましい教育環境の基本的な考え方を整理する中で、必要に応じて見直しを行うこととしています。 また、P29に記載のとおり、既存の学校を全て、目標耐用年数である80年以内に建替えるとした場合、今後、2年に1校ずつ建替えを行わなければならない、財政的にも困難であるため、<u>児童生徒数の状況や教育環境を見据えて、学校再編を検討</u>していく必要があると考えています。

食育（学校給食）について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	篠岡	子どもを増やすには周りの自治体より小牧市を選んでもらう必要がある。そのために給食を無農薬で地産地消の食材を使用したり、パンや乳製品の提供を止め、質の良い和食に変える等が有効である。まずは「食育」給食から変えていただきたい。 [提出者No. 8]	学校再編の有無に関わらず、成長期にある子どもたちの心身の健全な育成のため、<u>栄養バランスのよい給食を提供する</u>ことがとても重要であると考えています。 このため、PTA代表や学校長などで組織する学校給食献立作成委員会で献立の内容について協議しています。 また、学校においては地産地消などをテーマとした食に関する指導、いわゆる<u>食育として教育活動の中で行っている</u>ところです。

タブレットについて

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	篠岡	子どもにはタブレットを積極的に使わせるのはなぜか。 視力も姿勢も悪くなり、全ての答えをネット上に求め自分で考える力が育たない子が増えるのではないか。 [提出者No. 8]	P34に記載のとおり、情報通信技術が急速に発展し、未来を予測することが困難な社会を生きていく児童生徒が、<u>必要に応じて自らを成長させ、自らの力で時代を切り拓く確かな力を身につけられるよう</u>、授業や学校生活など様々な場面で、<u>タブレット端末等のICT機器を活用</u>しています。 また、情報モラルの育成については、各学校で活用ルールを作成・指導する等、家庭にも協力を仰ぎながら、児童生徒が情報モラルや情報セキュリティについて体系的に学ぶ機会をつくり、情報を正しく安全に利用する意識の向上を図っています。

不登校対策について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	篠岡	「1 学年複数クラス」が必ず良いとは限らない。その一つに「不登校」の問題がある。 仮に「1 学年複数クラス」で不登校になった場合、クラス替えで不登校が解消されるとは限らない。「1 学年 1 クラス」の学校へ転校し、不登校が解消されるかもしれません。そのため、「1 学年 1 クラス」の学校と「1 学年複数クラス」の学校に再編し、それぞれの家庭がそれぞれに合わせた教育選択ができる構想づくりが必要である。 [提出者No. 17]	P42に記載のとおり、学校が小規模化することに伴うデメリットとして、子どもたちの実態に応じたクラス替えが困難であるため、人間関係や相互の評価の固定化、男女比の偏りが生じやすいことなどが指摘されていることから、小規模校の解消は、いじめや不登校の対策として一定の効果はあると考えています。 しかしながら、<u>不登校の要因は、複合的な問題が絡み合っている</u>ことが多く、学校の規模だけで解決できる問題ではないことから、<u>不登校対策を理由として、適正規模を大きく下回っているにも関わらず、複数の学校を配置することはできない</u>と考えています。

小中一貫教育について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	小牧南	小中一貫教育の進展を期待する。 年長者が幼年者を援け思いやるスキルや心を育て、障害児や外国人はじめ諸事情を抱える人たちとのインクルーシブ教育を実現するためにも、適正な規模かつ適切な期間を継続して学べる小中一貫教育が、より理想に近い学校の形態である。 [提出者No. 5]	P39～P40、P54中段に記載のとおり、子どもたちにより良い環境でより質の高い学校教育を提供し、<u>義務教育9年間の学びと育ちをさらに繋いでいくため、小中一貫教育の導入を検討</u>していきます。

P T A活動について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	不明	今の時代共働きの家庭が多いため、例えば学校に集まる会議はすべてリモートで行うなど、家庭に負担にならない程度までPTAの業務量を減らすことが大事である。 [提出者No. 2]	P T A活動については、自主運営であり、各学校により活動に対する考え方が様々であります。各P T Aにおいては、これまでも活動しやすいように活動内容の見直しはされてきていると認識しています。そうした中においても、現状、P42下段に記載のとおり、<u>P T A活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすいことが、学校の小規模化のデメリット</u>として指摘されているものであります。

学校跡地や校舎等の利活用について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	篠岡	敷地や施設は、市民の財産として残し、活用してほしい。 [提出者No. 18]	学校再編後の施設（敷地や建物）のあり方については、今後、学校の再編の具体的な検討を進めていくのと並行して、教育委員会のみならず 市全体で検討 していく必要があると考えています。
2		元学校があった土地はどのように活用されるのか。児童クラブのあり方はどうなるのか。 空き教室に関しては、要配慮者の避難場所（または感染症罹患者の隔離避難場所）として稼働するような話を避難訓練の際に聞いた。 [提出者No. 27]	

他市町村の先行事例について

No.	地区	意見（要約）	市の考え方（案）
1	篠岡	他市町村の先行事例に学ぶことは、どの程度 されているのか。 [提出者No. 18]	これまでも既に学校再編に取り組んでいる自治体の行政視察を複数行うなど、先行事例を参考にさせていただいておりますが、引き続き、他市町村の状況等を注視し研究に努めてまいります。

地区別の提出人数

(人)

小牧	小牧南	巾下	味岡	篠岡	北里	不明
2	2	8	2	11	1	2

合計
28

地区	主な意見
篠岡	・ 早急に再編を進めていただきたい。（他 2 件） ・ 段階的に篠岡中学校に統合した方がよい。 ・ 通学距離のことを考えれば再編に反対である。（他 1 件） ・ 再編により通学の負担が増大することの解消が必要である。（他 1 件） ・ 分校制がよいのではないか。（他 1 件） ・ 人口増加の取組が必要である。（他 1 件） ・ 学校跡地を有効活用してほしい。（他 1 件）
巾下	・ 三ツ淵小学校は過去には 1 学年 1 学級であった。児童数が減少するからと歴史ある学校を廃校することは反対である。（他 2 件） ・ 村中小学校は廃校になるのか。 ・ 再編により通学の面で多くの課題が生じる。（他 3 件） ・ 再編は仕方ないかもしれないが、再編するのであれば、スクールバスの導入や、カウンセラーの常駐など、子ども達が肉体的・精神的に負担にならないよう配慮してほしい。（他 1 件） ・ 地域に学校がなくなることによって地域の過疎化が進んでしまう。（他 1 件） ・ 人口増加の取組が必要である。
その他	・ 小規模校だからこその良さがある。（他 3 件） ・ 篠岡地区の小中学校をそれぞれ 1 校に再編することは反対である。（他 2 件） ・ 再編により通学の負担が増大することの解消が必要である。（他 3 件） ・ 地域に学校がなくなることによって地域の過疎化が進んでしまう。 ・ 人口増加の取組が必要である。